

下川茂教授 略歴 主要著書・論文目録

略歴

1948年7月22日、大阪で生まれる。

1971年 東京大学 文学部 仏語仏文学卒業

1986年 東京大学大学院 人文科学研究科 仏語仏文学 博士課程単位取得退学

学位

文学博士（岡山大学、2006年）

著書

『「赤と黒」と聖書－ジュリアンとイエス物語』（ふくろう出版、2007年）

Le Rouge et le Noir et La Bible-Julien et Jésus（ふくろう出版、2008年）

『「米欧回覧実記」を読む』（西川長夫・松宮秀治編著、法律文化社、1995年）

翻訳

『漂流の思想－マルクスとフロイトからの漂流』（今村仁司・塚原史との共訳、国文社、1987年）

『TRAVERSE/4 恐怖』（石井直志・山田登世子氏との共訳、リプロボート、1989年）

論文

「スタンダールと知識の問題」（『フランス語フランス文学研究』39号、日本フランス語フランス文学会、1981年）

「『アルマンヌ』－厭世の行方－」（『散』2号、1982年）

「『赤と黒』論－アンチ・ロマンチック・ヒーローと〈対比と相対化のリアリズム〉」（『散』2号、1982年）

「『赤と黒』における「金（かね）」の問題」（『フランス語フランス文学研究』51号、日本フランス語フランス文学会、1987年）

“Le motif des oiseaux dans 《la Chartreuse de Parme》”, *Stendhal Club*, 127, 1990.

「『赤と黒』とデルフィーヌ・ゲーの『マドレーヌ』詩篇（一）」（『立命館文学』528号、1993年）

「『赤と黒』とデルフィーヌ・ゲーの『マドレーヌ』詩篇（二）」（『立命館文学』530号、1993年）

「『赤と黒』とラシーヌの『フェードル』」（『立命館文学』551号、1997年）

「Michael Nerlich 著 Apollon et Dionysos ou la science incertaine des signes (Marburg, Hitzeroth, 1989) について」（『スタンダール研究会会報』8号、1998年）

「Yves Ansel の書評について」（『スタンダール研究会会報』9号、1999年）

「スタンダール－死をもって贖われる至福の体験」（『週刊朝日百科 世界の文学』11号、1999年）

「ボーマルシェの『罪ある母』とスタンダール」（『立命館国際研究』12号、2000年）

- “Stendhal et *la Mère coupable de Beaumarchais*”, *H.B.*,4, 2000.
「『赤と黒』における上昇と下降のテーマ—ジュリアンとイエス」(『立命館文学』567号、2001年)
「スタンダールと国家—『1817年のローマ、ナポリ、フィレンツェ』から—」(『立命館経済学』50
—5、2001年)
“Le « *Te Deum* » de *La Chartreuse de Parme*” (『立命館文学』573号、2002年)
「スタンダールとマリー・アントワネット—隠された王家の悲劇—」(『スタンダール変幻』慶應義
塾大学出版会、2002年)
“A propos des "grands principes" de Fabrice del Dongo: pourquoi le heros de *La Chartreuse de
Parme* est-il reactionnaire?”, *C.I.R.V.I/Stendhal.L'Italie. Le voyage*, 2003.
“Stendhal et son penchant aristocratique : la nostalgie d'un monde a jamais revolu”, *L'Annee
stendhalienne*,2, 2003.
「『パルムの僧院』の語りについての試論—高揚する表現のテンポ」(『立命館法学』別冊『ことば
のひろがり (2) —川上勉教授退職記念論集—』2004年)
“*Le Rouge et le Noir* entre révolution et contre-révolution” (『立命館文学』590号、2005年)
“Quelques réflexions sur les idées politiques de Stendhal” (『立命館文学』591号、2005年)
“Stendhal et *Jacques le Fataliste*”, *L'Annee stendhalienne*,6, 2007.
「『赤と黒』新訳について」(『スタンダール研究会会報』18号、2008年)
「『アルマンズ』のサディズム」(『立命館文学』620号、2011年)
“Stendhal et Madame de Duras : le rousseauisme jacobin dans *Armance*”, *H.B.*,15-16, 2011.

研究会発表

- 「スタンダールと知識の問題」(日本フランス語フランス文学会 1981年度春季大会)
「スタンダールとイタリア」(地中海学会研究会、1983年)
「『赤と黒』—上昇と下降の物語」(第4回スタンダール研究会、1991年)
「『赤と黒』—上昇と下降の物語 (続)」(第6回スタンダール研究会、1991年)
「『赤と黒』とラシーヌの『フェードル』」(第14回スタンダール研究会、1995年)
「ボーマルシェの『罪ある母』とスタンダール」(第20回スタンダール研究会、1997年)
「マリー＝アントワネットの影」(第24回スタンダール研究会、1999年)
「スタンダールの反共和主義について」(第32回スタンダール研究会、2001年)
「再論・スタンダールの反共和主義について」(第33回スタンダール研究会、2002年)
「スタンダールの『赤と黒』—革命と反革命の間で—」(立命館土曜講座第2621回、2002年)
“Stendhal et Mme de Duras: le jacobinisme rousseauiste dans *Armance*” (第42回スタンダー
ル研究会、2005年)
「フランス滞在報告—レゼシエルの洞窟と『赤と黒』」(第46回スタンダール研究会、2006年)